

AES ジャパンコンファレンス・名古屋 2015 スペシャル・レコーディング・ワークショップ

9月13日(日)14:00-16:00

「ポリヒムニアによるステレオとサラウンドにおける 録音技術とその哲学について」

ジャン＝マリー・ヘイセン

Jean-Marie Geijsen, Polyhymnia International B.V.

概要

本ワークショップでは、ポリヒムニアインターナショナル BV のバランスエンジニア・プロデューサー、ジャン＝マリー・ヘイセン氏が、これまでの様々な取り組みについて、その録音技術的と録音哲学について紹介します。1枚のクラシック音楽の SACD や CD が発売されるまでには、膨大な量の芸術的・技術的な仕事が必要となります。このワークショップでは、その技術的な部分に焦点を当てていきます。例えば、マイクセットアップは、どんなアーティストがどのように演奏するかに依存し、それは録音の一つの要素となりますが、今回のワークショップでは以下の5点をテーマとして挙げます。

- ・ 機材について
- ・ プレイバックシステム
- ・ 録音哲学 メインマイクについて
- ・ 録音哲学 スポットマイクについて
- ・ ポストプロダクション、エディット、ミキシング、マスタリング

近年行った録音の中から、ピアノソロからオペラまで規模の大小様々な音楽の音源をお聴き頂きながら、上記のテーマについて私達の考えや実践している事を説明し、様々な別の考えを持っているであろう全てのプロダクションに対して敬意を持った上でディスカッションをしたいと思っています。



ジャン＝マリー・ヘイセン
Jean-Marie Geijsen

Jean-Marie Geijsen, Director & Balance engineer, Polyhymnia International B.V.

1984年から1988年までオランダ・ハーグ王立音楽院で、バロック音楽を中心にクラシック音楽の録音を学ぶ。1988年から1990年はマスタリングエンジニアとしてキャリアをはじめ、フリーランスのクラシック音楽の録音と、PAエンジニアとして活動する。1990年よりフリーランスとして、フィリップス・クラシックスにてエディター、リマスタリングエンジニアとして、また、1996年にはフルタイムのバランスエンジニアとなる。1998年にフィリップスレコーディングセンターは独立し、ポリヒムニア・インターナショナルとなる。現在はそのポリヒムニアのバランスエンジニアとして、オランダをはじめ、ベルリン、ロンドンなど、ヨーロッパ各地でクラシック音楽録音を势力的に行っている。これまでに、アルフレート・ブレンデル、リッカルド・ムーティ、小澤征爾、イヴァン・フィッシャー、アンドレア・ボチェッリらの録音を手がけている。